

災害復旧に 全力活動



曾我大沢地区

〔農林水産業被害〕令和3年7月豪雨

異常気象がもたらす集中的豪雨による突発的な災害は、県西地域でも例外ではありません。県議会環境農政常任委員会副委員長のおざわ良央県議は、委員会活動（次ページ参照）は勿論、現地視察による実態把握や早期復旧に向けての、国、県、市との折衝等、迅速な復旧工事着手へ向けて全力で活動。持ち前の情熱と行動力を遺憾なく発揮しております。

昨年7月1日から本格的に降り始めた雨は、2日、3日にかけて、梅雨前線が太平洋沿岸で停滞し、小田原市や箱根町を始め、県内各地に豪雨をもたらしました。

県西部を襲った異常降雨は、市内の農林水産業等に大きな被害をもたらし、おざわ県議は、早速、各地の災害現場にとび、被害者の話を聞き、県や市と具体的な早期復旧対策等を協議。その対応と実行力は、おざわ県議の地域への想いが原動力です。

県当局が把握している小田原市の農林水産業等の被害は、農業関係では、農地の損壊29箇所、農道、水路の破損と土砂流入14箇所、農業用ハウス、倉庫等6棟破損、林業関係では、林道施設等の被害7箇所等、また水産関係では定地網の破損等、と多額の復旧予算を必要とする規模となりました。

これらの早期着手には、市、県予算が活用されますが、まずは国の災害復旧事業の適用を受けての国予算確保という手順があり、県、市一致協力しての連繋作業が求められます。

被害者に寄り添い、誠実に行動する、おざわ良央県議の活躍が期待されています。

おざわ県議の主な現職

県議会	環境農政常任委員会 副委員長
県議会	決算特別委員会 委員
神奈川県	都市計画審議会 委員
自民党	神奈川県議団政務調査会 副会長
自民党	神奈川県支部連合会 副幹事長
自民党	小田原市連合支部 支部長



酒匂川スポーツ広場も冠水

県議会第3回定例会

環境農政常任委員会副委員長 報告

農業と防災（9月29日）

気候変動を背景とした豪雨災害の激化を受け、酒匂川流域でも「流域治水プロジェクト」が始動。流域住民の生命とくらしの安全・安心を守る県の対応について、おざわ副委員長が質問。以下主要質疑の要約をご紹介します。

おざわ 流域治水での県土整備局と、農政関係の相互連携はできているか。

農地課長 水田、農水路、ため池等の農業水利施設の活用、整備、改修により、防災機能を維持向上させて流域治水に貢献します。

持続可能な定置網漁業（9月29日・10月11日）

続いて、地場産業の振興に力を入れるおざわ副委員長は、県水産業活性化指針の改定と、定置網漁業の現状について集中的に質問。

【9月29日】

おざわ 今年度、県水産業活性化指針を改定するというが。

水産課長 令和2年、70年ぶりの漁業法の改定があり、水産政策の改革、特に養殖業への本格的な注力等あり、また、持続可能な開発目標SDGsの推進等、指針をとりまく環境の変化があり、今年度の改定となりました。

おざわ 新規加入漁業就業者数が減少している。対応は。

水産課長 先端技術を活用した働きやすい環境の実現や、かながわ漁業就業促進センターの開設、また国内最大規模の養殖事業の誘致等に取り組めます。（以下省略）

決算特別委員会 質問

令和3年11月5日、おざわ県議は、決算特別委員会の委員として、県の主要施策「県西地域活性化プロジェクト」の拠点施設、未病バレー〈ビオトピア〉等について質疑。一部のみをご紹介します。

おざわ コロナ禍の中で、健康に関心を持つ人が増えてきた。このニーズに対応するための取り組みは。

地域活性化担当課長 〈未病エクسプラザ〉で未病についての気づきを得て、園内の森林遊歩道等自然の中で実践活動をしたり、一連の流れの中で日常的な未病改善につなげていきたい。

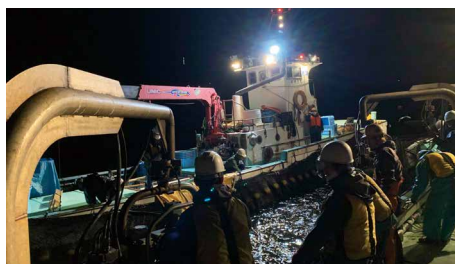
おざわ 県西地域活性化の核としてのビオトピアの成果は。

地域活性化担当課長 未病改善を切り口として、観光客増に力



おざわ 農地の活用は。

農地課長 大雨を積極的に貯水する農地の活用は、現実的に農業者の負担も大きく、理解や合意形成は難しい。しかし農地や水田を集積、保全することは重要と考えています。



【10月11日】

おざわ 近年の定置網漁業の状況は。

水産課長 知事免許が必要な定置網漁業は県内24。主たる魚種は、イワシ、アジ、サバ、ブリ等の回遊魚ですが、ここ10年間で定置漁獲が5割も減少しました。

おざわ 漁業者の収入増のために県の支援は。また今後の支援は。

水産課長 生産力の増強策が必要。漁業所得の向上に向けた取り組みや漁具や漁船等の設備投資の支援、更に魚価向上の支援をまいります。

その他

★漁獲増のためのロボットやICT先端技術の活用

★波浪に強い定置網の開発

★被災漁業者の生産活動支援のための国制度創設への提案等の質疑が熱心に繰り広げられました。

を入れ、〈未病エクスプラザ〉は当初の目標より早く、来場者数100万人を達成。運動や温泉を楽しめる域内の観光施設200以上が、「未病いやしの里の駅」登録。新たになぎわいが創出される等、一定の成果が上がっていると考えています。

おざわ 人口減少が進む県西の中で、働く場所が増え、人口が流入し、定着するというような着実な流れを作りたい。

地域活性化担当課長 これまで「観光」をメインで進めてきました。これからは「暮らし」に意識を移す取り組みを進めていきます。

議会で現場で

ひたすらに！

自民党県議団政務調査会副会長 報告

県議会の自民党代表質問をまとめる

県議会（定数105名）には、いくつかの会派があります。自民党はその中の最大会派で、現在49人の県議を擁しています。本会議での自民党の代表質問の持ち時間も当然最大で、それだけに県政全般にわたる項目の中からその内容を決め、草稿を練る役割を持つ政務調査会の副会長 おざわ良央県議の責任は重く、県議会閉会中も含めて多忙を極めます。ここで12月開催の定例会での自民党の多様な代表質問項目をご紹介します。

主な代表質問項目

- ★デジタル戦略の策定について
- ★デジタル社会での成年年齢引き下げへの対応
- ★中小企業支援へのデータの利活用
- ★保健医療データの活用
- ★県営水道事業のデジタル化の推進
- ★警察の行政手続きの利便性向上
- ★時機を捉えた企業誘致の促進
- ★通学中の児童の安全確保について
- ★スポーツツーリズムを通じてのスポーツ振興について
- ★小学校高学年の教科担任制の導入
- ★全国学力・学習状況調査結果を踏まえた小・中学校の学力向上について

- ★本県文化芸術新興と神奈川フィルハーモニー管弦楽団
- ★地域からの脱炭素社会実現への取組み
- ★県住生活基本計画の改定について
- ★土砂災害警戒区域等の今後の対応
- ★ケアラー、ヤングケアラー支援
- ★社会的養護経験のあるケアリーバーの支援について
- ★県立特別支援学校の整備
- ★当事者目線の障がい福祉について
- ★今後の新型コロナ感染症対策
- ★コロナ後をみすえた医師・看護職員の人材確保

- ★新型コロナワクチンの接種体制
 - ★ワクチン後遺症への対応について
 - ★コロナ禍での衛生研究所のあり方
 - ★第6波への医療提供体制の充実
 - ★行動制限緩和に伴う観光施策
- （以下略）



自民党県議団政務調査会での慎重な協議を経て、多くの質問候補の中からこれらが本会議での主な代表質問として決定されました。今回は「政務調査会」の大切な役割の一つをご理解いただくために、項目のみご紹介しました。

着々と進む
安心・安全なまち

【都市計画道路】城山多古線久野坂下地区トンネル工事始まる

埋蔵文化財発掘調査等が終り、全長220mのトンネル工事がいよいよ新年度から着手予定。



国府津海岸越波対策

令和元年の台風19号は、市内各地に被害をもたらしたが、国府津駅付近の国道1号沿いの越波対策工事（延長200m）が着手。近隣住民や主要交通路の安全のために早期の完成が待たれる。



広域農道小田原湯河原線

渋滞時、特に災害時の国道135号（真鶴道路）の代替機能も持つ、広域農道小田原湯河原線（延長17km）工事は、新年度から5年間で残工事を実施予定。山間地で時間や工費がかさむが80%の進捗率。関連する田代山農道等の工事進む。



【都市計画道路】小田原中井線

国道1号の西湘バイパス橋インター入口から北へ向って、計画延長2,420m、小田原厚木道路先で県道709号（中井羽根尾線）と合流する都市計画道路小田原中井線も工事進捗中で、国道1号から、整備された西湘テクノパーク付近までの道路改良工事や、用地測量等が進められている。



【都市計画道路】穴部国府津線蓮正寺～穴部間

区間1300mの内、小田急線、狩川、大雄山線等があり、橋梁部が370mにもなる。工期、工費がかかる難工事、設計、測量、用地買収が進む。